

令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	大橋英子
学科	子ども学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育実習Ⅰ	子ども学科	1
保育実習指導Ⅰ	子ども学科	1
保育実習Ⅱ	子ども学科	2
保育実習指導Ⅱ	子ども学科	2
乳児保育Ⅰ	子ども学科	1
乳児保育Ⅱ	子ども学科	1
幼児と言葉	子ども学科	1
保育内容「環境」	子ども学科	1
絵本の世界Ⅰ	子ども学科	1
絵本の世界Ⅱ	国文学科	1

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	副委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員	紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長	担当	小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。 ・修得単位が少ない学生・欠席の多い学生、を早期に見つけ、意欲をなくさないようにし、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立ができるように教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行っていく。 ・滋賀県による保育士支援会議・保育士人材確保部会、保育協議会等の会議に参加し、得られた最新の状況を学生募集や、学生支援、就職相談等に活かしていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>○実習指導においては、保育現場で求められる実践的指導力のみならず、学びや生活面といった多面的なサポートが求められるようになってきたため、人間力向上や基礎的な学力を身に付けていけるようにしている。学習へのサポートをしていくだけでなく、専門的知識と実践をつなげるために、乳児を見立てた人形を使っての実践・視覚的教材・模擬保育の実践など様々な方法を用いて理解が深まるようにしている。</p> <p>○免許取得に対する不安な気持ちに寄り添い、担任教員との連携を密にし、できる限り面談して不安材料を取り省くようにする。</p> <p>○模擬保育授業においては、ルーブリック評価を取り入れ、自己評価・他者評価を行い、振り返り・課題・気づきを重点にした授業を行い、保育実習に反映できるようにした。</p> <p>○「子どもの最善の利益とは」について、保育現場での経験事例を用いて、グループワークを通して学びを深められるようにする。</p> <p>○GPA 下位の学生には、個別支援指導を行った。指導案の作成・実習日誌の記録の取り方等特に苦手意識や困難感をもつ学生に対しては個別指導を行うなどできる限りの学習サポートを行う。</p> <p>○絵本士資格を学生に取得させることは、将来保育者を目指す学生にとって有意義であるため、今年度から講座での授業を実施する。認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドラインに基づいた口座を開設し、多様なジャンルの絵本の紹介、作者の思い、出版者の方の立場など、学びを深めるようにゲストスピーカーを迎える。</p>
授業以外 （学生支援等）	<p>○教育・保育実習に先立ちインターンシップの機会や子育て支援事業への参加など実施し、学生たちが現場で働くイメージを膨らませながら、免許取得に意欲が持て保育士養成の理解が深まるようにする。</p> <p>○学生が主体的に「ぶんぶんひろば」を開催できるように「子ども学科の時間」を有効に活用し、安全・安心な環境構成の準備ができるようにサポートした。</p> <p>○高大連携授業・中高校生に対しての授業など行い、保育者や教員への関心や魅力、やりがいなど知ってもらえるように演習を交えた楽しい授業を行う。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>○講義で学んだことを実際の保育現場に想定して体験授業と連動させた授業は知識・技能の習得につながり実践力向上になった。また、紙芝居や手遊び、読み聞かせの技能を授業の中に取り入れ、経験を積んできたことは保育実習での意欲的な活動につながった。</p> <p>○模擬保育では、自己評価・他者評価をすることで、自らの保育実践を見つめることで新たな気づきを見出すことができた。学生からは「学生相互の評価をしたことで自らの保育を改善できた。」と言う声が多かった。</p> <p>○保育実習においては、子どもだけでなく親や様々な職員さんと人間関係を築いていく必要がある。社会人としての接遇マナーが求められるため、人と接する時のマナーを今後、もう少し取り入れていく。</p> <p>○絵本士の授業を受ける前の学生アンケートでは「絵本が好き」とか「資格を取りたい」など応えていたが、15回の講座後では、「子どもも大人にも、もっと絵本の魅力を伝えたい」「お話し会を企画したい」「絵本への関心が一層深まった」などが書かれていた。学生は絵本に対する意識や考え方が変わり、子どもだけでなく保護者や地域にも伝えたいという気持ちが高くなった。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○定期的な面談を含め、呼び出し面談、実習などの不安解消面談、学習支援など学生生活全般についての悩みや不安などを聞き、随時対応してきた。学生理解を深める大切な場となり、学習意欲の向上が図れた。</p> <p>○就職試験合格者に対して、仕事への不安軽減のサポート面談を行った。個々に様々な不安を抱えていること、また、安易に考えていること等もわかった。誰もが生き生きと働けるように、現場での経験をいかしたアドバイスをを行った。学生は、仕事に対する責任感を感じながらも保育者としての仕事に期待を持ったのではと思った。</p> <p>○ぶんぶんひろば開催は、安心・安全な環境構成など、授業で学んだ知識・技能をフルにいかすことができる実践の場となった。</p> <p>○高大連携（北星・翔西館）での授業、高校生ボランティア部の「ぶんぶんひろば」参加、中学生の来校等では、中高校生に授業の一部を一緒に楽しんでもらったり、保育の専門性について情報を発信したりして保育者や教員の魅力等を伝えることができた。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>○保育者の道を志し、入学してきた学生の潜在的な力を引き出せるように、そして免許取得につなげ保育現場で活躍できるように、一人一人にそった学習支援をしていく。また、実習に関わる教員と連携して学生への学習支援において協働していく。</p> <p>○負担や不安になる実習日誌や指導案の書き方を理解させ、個別指導も取り入れながら丁寧な指導をしていく。</p> <p>○意欲の持続向上を図るために、実習の振り返りを少人数、あるいは個別に丁寧に行っていく。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>○保護者支援は保育者に課せられた責務である。本学の子育て支援事業「ぶんぶんひろば」は、唯一子どもや保護者と関わることによって子どもの成長・発達を実感する場である。今後も、定期的に子どもや保護者と関わることで学びの意欲を高め、自信をもって実習に臨める機会をつくっていく。また、「ぶんぶんひろば」だけでなく地域の子育て支援の現場に入れる機会をできるだけつくる。</p>

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	<p>保育者としての免許を全員が取得できるように実習指導には特に力を入れてきた。実習前指導では、理解不足や能力不足で不安に陥っていないか一人一人に寄り添い学習支援をしてきた。実習事後では学生が体験したマイナスのエピソードには丁寧に聴取し、学生に保育の基本を伝えながら、学生が客観的に振り返ることができるように指導した。</p> <p>結果として、保育の道を志した全員がやり遂げ、免許取得につながる実習を終えることができた。</p>
担当業務	<p>「ぶんぶんひろば」等、保育者の魅力向上につながる学生の主体的な活動をサポートしてきた。「子育て広場スキップ」での活動やアル・プラザにおける読み聞かせや人形劇（当日台風のため中止）は、保育者になる上で貴重な体験であるため、活動が活発に進むようにサポートをした。学生はこの活動経験から「保育者になりたい」という意識が向上した。</p>

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上